

教団新報

定 価 1部220円(本体200円+共283円)
予約購読料 1年分 共 3,962円
紙代のみ 3,080円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内 電話03(3202)0546
FAX03(3207)3918
URL http://uccj.org
発行人 網 中 彰 子
編集主筆 嶋 田 恵 悟
印刷所 株式会社きかんし

2025年度

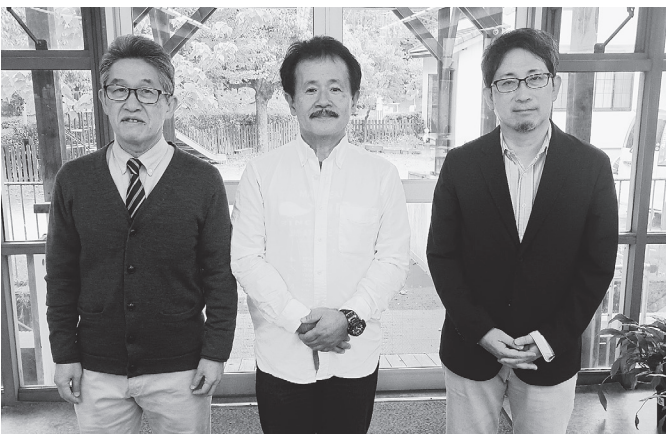
九州・京都・兵庫・中部・関東・西中国

教区総会報告 ②

教区財政をめぐる課題を検討



左から、矢崎副議長、日下部議長、長谷川書記



左から、小笠原副議長、横田議長、松下書記

九州

教区機構改定検討小委員会を設置

第75回九州教区総会が、5月6～8日、福岡中部教会を会場に開催された。開会礼拝ではコロナ禍以来、久しぶりに聖餐式が行われ、豊かな恵みを分かち合った。開会礼拝に続き、今年度より新たに着任した10名の教師の紹介がなされた。また、2名の准式式が執り行われた。

教団問安使として黒田若雄教団書記が出席、一日目の夕方には議員研修会の講師を務めてもらった。「四国教区の現状と展望」自立連帯献金に取り組む教区として」との題で話してもらい、互助を大切にしている九州教区にとって大きな学びとなった。

京都教区定期総会を5月16～17日、平安教会で開催した。議員140名中88名出席、二日目冒頭52名出席で成立した。

京都

アメリカンボード京都宣教150周年記念礼拝を実施

京都教区定期総会を5月16～17日、平安教会で開催した。議員140名中88名出席、二日目冒頭52名出席で成立した。

ボードの流れを汲むWCM(ワイダー・チャーチ・ミニストリーズ)と宣教協力することとなり、このWCMを基盤とするCGMB(コモン・クロール・ミニストリーズ・ボード)からのゲストを迎えての礼拝だった。説教は一般財団法人クラッパードイン代表理事の木村良己牧師。礼拝後、シャ

難させられる計画が進められていくことについて、これからの戦争準備の計画を各自自治体で受け入れ協力することの必要が要請文を九州各県に届けることが可決された。

長谷川渉(津屋崎) 常置委員選挙結果
【教職】日下部克彦(大分)、多田玲一(熊本白川)、戸田奈都子(川内)、松崎豊(福岡弥生)

【信徒】伊津見七生子(若松浜ノ町)、川端智絵(大牟田正山町)、小深田信昭(国東)、坂本圭(宇佐)

【議長】横田明典(近江金田)、【副議長】小笠原純(平安)、【書記】松下道成(洛陽)

【教職】浅野献一(室町)、横田法子(草津)、米倉渚(物部)、山下瑞音(東舞鶴)、平山正道(大津)、熊谷沙蘭桂、新井純世光

【信徒】富増献兒(西小倉めぐみ)、上田佳子(大津)、谷村耕太(水口)、吉見恵子(福知山)、堀井忠(京都丸太町)、原田潔(大津東)、山下容子(石山)

(横田明典報)

☆教会幼稚園・幼児施設融資金募集☆

幼稚園・幼児施設(認定こども園・保育園等)の土地拡張、増改築、新築のため、幼稚園・幼児施設融資金2025年度分を次の要領で募集します。

- ◎金額 50万円～300万円
- ◎返済期限 5年以内
- ◎利子 期限内 年 0.5%
期限後 年 1.0%

2025年度は総額600万円を貸し出します。教区事務所を通して教団教育委員までお申し込み下さい。締め切りは8月31日です。融資実施要綱、申請書は教育委員会まで(電話03-3202-0544)

*教団HPからもダウンロード可。



教会に赴任して16年目にして初めて、自ら牧師館の花壇に花を植えた。荒れ放題の状況を

て、神学校で寮生活をしていて、あるクラスメイトが花壇に花を植え始めたことがあった。それを見て、いたく感激していたのは、神学校の中で唯一一人キリスト者ではなかった用務員の方だった。曰く「長くこの学校に勤めて来て、『教育』の内の『教える』という側面は見えて来たが、初めて『育て』という側面を見た」と。▼パウロは、各々が敬う指導者のもとに派閥をつくっていた教会の人々に向けて「わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です」(コリ1-3・6)と語った。教会において「育てる」とは即ち、神の働きを受け止め、待ちつつ励むことではないだろうか。思い起こせば、教会が誕生したのは、「高い所からの力に覆われる」のを待ち、一つになって祈っていた弟子たちからだった。▼花壇に咲いた花を見ながら、「これまでに『教える』ことに比重を置きすぎていたかもしれない」と自らを省みつつ、「花の日を過ごした。

兵庫

「互助」について時間をかけて協議

第79回「合同」後56

回兵庫教区総会が5月18、19日に神戸教会で、対面を中心しながらオンライン出席も含めて行われた。上程された議案については、すべて可決され、法定議案以外では、教区の謝儀保障制度に関する議案、「合同」問題に関する議案、「教区間宣教連帯金会計」設置継続に関する議案」などが上程され、それぞれ可決された。

かけた。そして本議案では、兵庫教区の教会・伝道所のそれぞれの宣教の働きが公平に果たされ、支えあうことが教区の生命線であるという意識のもと、新しい負担金の算定基準を2026年度から実施することが提案された。多くの議論が交わされたが、賛成多数で可決された。様々な痛みの中にあっても、共に生きの中で新たな未来が拓かれることを信じていた。

第75回中部教区定期総会が、5月20、21日の日程で、名古屋中央教会を会場にして開催された。開会時の議員数は、正議員162名中90名。開会礼拝では、日本基督教団信仰告白を一同で告白し、聖餐式も執行され、議長報告がなされた。報告では、能登半島地震に対する対応について、今後加速度的に進むであろう教勢の低下についてが強調された。特段質疑応答なく報告は承認されたが、議

場から、ハラスメントに関する講習会開催の要望があった。その他「原理問題」対策委員会報告において、旧統一協会や新天地等カルトからの接触についての注意喚起がなされた。

三役選挙結果
【議長】森なお（加古川東）、【副議長】小栗献（神戸聖愛）、【書記】梶田翔希（尼崎）
常置委員選挙結果
【教職】山本一（伊丹ノ神戸）、新堀真之（甲東、松本あずさ（はりま平安）、大仁田拓朗（甲子園）、上内鏡子（神戸イ

お知らせ
「教団新報」次号を、7月12日に5034増刊号として発行します。
総幹事 網中彰子

中部

能登半島地震、被災教会の現状を共有

第75回中部教区定期総会が、5月20、21日の日程で、名古屋中央教会を会場にして開催された。開会時の議員数は、正議員162名中90名。開会礼拝では、日本基督教団信仰告白を一同で告白し、聖餐式も執行され、議長報告がなされた。報告では、能登半島地震に対する対応について、今後加速度的に進むであろう教勢の低下についてが強調された。特段質疑応答なく報告は承認されたが、議

場から、ハラスメントに関する講習会開催の要望があった。その他「原理問題」対策委員会報告において、旧統一協会や新天地等カルトからの接触についての注意喚起がなされた。

三役選挙結果
【議長】森なお（加古川東）、【副議長】小栗献（神戸聖愛）、【書記】梶田翔希（尼崎）
常置委員選挙結果
【教職】山本一（伊丹ノ神戸）、新堀真之（甲東、松本あずさ（はりま平安）、大仁田拓朗（甲子園）、上内鏡子（神戸イ

かにされてこなかった部分の現状把握が現在の課題であると藤盛勇紀副議長が答えた。戦後80年を覚える祈りの文言の中に、沖縄教区に関する文を何らかの形で盛り込むことが出来ないか、新任教師オリエンテーションで配布されたハラスメントに関する資料を各教会に配布してほしいという要望があった。

カルト問題相談会
◎日時 2025年7月18日（金）午後1時～3時
◎会場 日本キリスト教会館（4階A・B会議室）

まず、謝儀保障制度に関して「謝儀保障制度財政を見直し、全教区的な協力を求める件」として審議された。兵庫教区ではこの数年、「互助」について多くの話し合いをし、常置委員会をはじめ本総会でも多くの時間を

第75回中部教区定期総会が、5月20、21日の日程で、名古屋中央教会を会場にして開催された。開会時の議員数は、正議員162名中90名。開会礼拝では、日本基督教団信仰告白を一同で告白し、聖餐式も執行され、議長報告がなされた。報告では、能登半島地震に対する対応について、今後加速度的に進むであろう教勢の低下についてが強調された。特段質疑応答なく報告は承認されたが、議

場から、ハラスメントに関する講習会開催の要望があった。その他「原理問題」対策委員会報告において、旧統一協会や新天地等カルトからの接触についての注意喚起がなされた。

三役選挙結果
【議長】森なお（加古川東）、【副議長】小栗献（神戸聖愛）、【書記】梶田翔希（尼崎）
常置委員選挙結果
【教職】山本一（伊丹ノ神戸）、新堀真之（甲東、松本あずさ（はりま平安）、大仁田拓朗（甲子園）、上内鏡子（神戸イ

野
【信徒】村瀬明子（平田）、鈴木卓也（南山）、山本松子（紀伊長島）、宮川美恵子（金沢元町）、西井淳（富山二番町）（小林信人報）

お知らせ
「教団新報」次号を、7月12日に5034増刊号として発行します。
総幹事 網中彰子

関東

御言葉によって立つ教会形成のために

第75回関東教区総会が、5月19、20日にかけて大宮ソニックシティ小ホールを会場に正議員179名の出席を得て開催された。開会礼拝において聖餐の恵みにあずかった。佐藤潤氏（大宮教会担任）、北田翔太郎氏（上尾使徒教会主任）の准允式が、熊江秀一議長のもと執り行われ、新たな教師の誕生を共に喜んだ。

といて三つの大きな軸のもとにたてられた。御言葉によって立つ教会形成のための教師研鑽、信徒育成、主にある交わりの重要を確認した。教区総会設営特設委員会を設置する件、教区負担金に関する特例措置の終了に関する議案が可決された。

【教職】武田真治（上尾合同）、栗原清（武蔵豊岡）、町田さとみ（初雁）、市、豊川昭夫（越谷）、富田信也（大宮）、横坂幸子（新潟）（小池正造報）

お知らせ
「教団新報」次号を、7月12日に5034増刊号として発行します。
総幹事 網中彰子



左から、小栗副議長、森議長、梶田書記



左から、小林副議長、加藤議長、山田書記

仮執行順序において、二宮めぐみ議員より出された「女性担任教師の推

【信徒】金刺英雄（上尾合同）、半田加世子（原

【信徒】金刺英雄（上尾合同）、半田加世子（原

お知らせ
「教団新報」次号を、7月12日に5034増刊号として発行します。
総幹事 網中彰子



准允式。左から、北田教師、熊江議長、佐藤教師

日本基督教団におけるアウトティング・人権侵害について

謝罪 報告および処分

日本基督教団総幹事 網中彰子

2022年5月、日本基督教団部落解放センター（日本基督教団事務局分室）において、元嘱託職員（以下、元職員）によるアウトティング事件（以下、本件）が発生しました。本件発生效后、部落解放センターおよび部落解放センター運営委員会内で解決のための協議を重ね、更に内部調査を行いました。しかし、結果として元職員の行為が「アウトティング」であるかどうかの判断には至りませんでした。2023年4月に総幹事が交替し、この問題を総幹事預かりとし、外部の第三者機関（以下、第三者委員会）に調査を依頼し、2024年11月に調査結果が出ました。それに基づき、本件概略をここに説明申し上げます。

※第三者委員会 日本基督教団と利害関係が全くない方々によって組織されている。

〈第三者委員会設置の経緯〉

2022年5月、日本基督教団部落解放センター（日本基督教団事務局分室）において、職員としての守秘義務違反が発生しました。この対応を部落解放センター運営委員会が担うことになり、運営委員会での議論が続きました。2023年4月に網中彰子が総幹事として着任し、本件の経過を再確認する中で、執行機関である事務局の組織的な瑕疵があると判断いたしました。

〈調査結果〉

本件調査結果は、元職員による守秘義務違反行為はアウトティングであることを認定しました。アウトティングとは元来、性的指向や性自認等に関する情報等を本人の承諾なしに第三者に伝えてしまうことの意で使われてきたのですが、現在では性的指向や性自認等にかぎらず広く「機微な個人情報」を本人の同意なく第三者に開示することをアウトティングと認定しています。

この調査結果に基づき、総幹事の謝罪文と元職員の謝罪文についての総幹事の見解を「教団新報」に掲載いたします。また、元職員については「日本基督教団事務局・出版局就業規則」第39条第1項（2）（3）に従って、遡って訓告処分とし、今後、教団からの指示があるまで、教団部落解放センター等の活動に関わることを禁止いたします。さらに、総幹事については「日本基督教団事務局管理職執務規程」第19条（4）に従って減給処分（3ヵ月の減給10%）といたします。

調査結果の詳細は被害者の方のプライバシーを守るために記しません。しかし、調査結果における執行機関としての日本基督教団及び議決機関としての部落解放センター運営委員会の過ちについての指摘を共有することにより、私どもの組織が問

われていること、また、再発防止の

ための提言を報告します。

〈調査報告書 抜粋〉

1. アウティングについての基本的な理解の欠如
アウティングとは、本人の承諾なく、本人が公にしていない属性を他者に暴露する行為であり、ハラスメントでもある（厚労省のパワハラ防止法指針（令和2年厚生労働省告示5号）にも、パワハラの代表的な言動の一例として「労働者の性的指向・性自認や病歴、不妊治療等の機微な個人情報について、当該労働者の了解を得ずに他の労働者に暴露すること」が挙げられている）。本人が具体的に開示を承諾していない相手であれば、開示した者にとって開示先が信頼関係がある相手であったり、特定の少数者が相手であったとしても、「アウティング」にあたる。

2. 教団の組織的な問題点

今回のアウティング事件は、元職員の個人的な逸脱の問題のように見えるが、その発生の背景やその後の経緯から、教団組織の抱えている組織的要因、集団の特性が様々に絡んでいる。明確な人権侵害でありながら、かくも問題解決が長引いた原因を検討することが調査委員会の求められる最大のテーマである。理由は多岐にわたるが、最大の問題は、文字通り今回の事件の差別性を組織的な問題として認識できなかったことにある。

本件の経過から見える組織的な問題点を指摘する。組織の権限や命令系統に注目して大別すると、権限による上位と下位で厳密に構成される「ピラミッド型」のものと、中心と周辺で緩やかに構成される「フラット型」「鍋蓋型」の組織がある。緩やかな連携組織の傾向が強い教団では、上位、下位の構造が緩く、権限に基づき適切に管理をするという觀念が比較的薄い組織となっている。ピラミッド組織は権限が上層部に集中するのに対して、フラット組織では上層部の権限が下層部に委譲され、構成員個人に裁量権が与えられ、

そのためフラット組織では各構成員が主体的に意思決定でき、課題などへもスピーディに対応できる反面、全てが個人の責任で行われることから組織としての責任の所在がいまいになる。

部落解放センターは、部落解放問題を専門的に扱う専門家集団的な立場に置かれることで、教団本部とは距離のある独自の立ち位置となっており、教団の部落解放問題を扱う職能的な部門を構成しており、フラット組織の性格を有する。

こうした機能別組織は、前述したように各部門がそれぞれの職務に集中できるため、ノウハウの蓄積により専門性が発揮しやすいメリットがあり、独自の判断での機動的な動きが可能になる。しかし、その反面、各組織の職務が専門化しやすく、横のつながりが弱く、全体を俯瞰することができるマネジメント人材の育成が困難なデメリットも生まれやすくなる。

「皆平等」という仲間意識での仕事の進め方は、往々にしてピラミッド型の上位下達によるOJT（オン・ザ・ジョブ・トレーニング）が機能せず、組織構成員の担当業務の進め方が独善的になりがちである。そして、そうした職場経験の優位者は、自分の万能感を高めがちになる。これは一人教団だけの問題ではなく、組織一般としても陥りがちな傾向であることから、あらためて教団組織の危機管理の問題として考える必要がある。

今回は、フラットな組織のデメリットが最大限に表出してしまった事件であると言わざるを得ない。つまり、部落解放センターが教団の部落差別問題を二元的に管理することによって、教団が当事者性を失ってしまい、差別問題を部落解放センター任せにしてきた教団自体が、絶えず差別と向き合うという課題をな

いうべき事態である。

3. 本件人権侵害性についての調査委員会の判断

アウティングが認定された上で、教団は各構成員に対し、職場環境配慮義務を負っている。アウティングが被害者の自死をもたらした事例もあり、アウティングが死に至りうるほどに本人の精神的不調をもたらすものであることは知られている（2015年一橋大学自死事件）。

従って、教団は、構成員が他人のプライバシーに関わる機微な情報を取得した場合には、当該情報を適切に管理する義務がある。それにもかかわらず、教団の情報管理体制が不十分であることによってアウティングが生じてしまった場合は、教団自身がその職場環境配慮義務に違反したとして、アウティング被害を受けた者に対して直接的に損害賠償責任を負う可能性もあると考えられるところである（民法415条。本件が、精神のみならず、生命をも侵害しているほど重大なものであることを改めて共通の理解とする必要がある。今回の事件が生み出した被害者への多大な痛みへの配慮をもって、時間の経過がもたらす苦しみ思いを馳せ、一刻も早い解決を使命として認識すべきであった）。

本件は、行為者の主観（悪意や故意）にかかわらず、いわゆる「アウティング」に該当する。アウティングの内容は被害者のプライバシーに関わることで詳細は避けるが、極めて深刻なものであり、行動と精神の自由の制限を余儀なくされる。また、この問題が多くのマイノリティが差別から自身を解放しようとする当事者にとっても、重大な問題を投げかけるものであり、人によっては大きく傷つけられることにも繋がることに留意すべきである。

また、「アウティング」は、社会的差別により計り知れない苦痛と恐怖、行動の制約を受けてきた被害者

の「自己情報コントロール権」を侵害するものとして、いかなる例外もなく許容できないものである。したがって、マジョリティの価値観に基づいてアウティングか否かの基準を立てること自体に重大な人権侵害性があると考ええるものである。

結論と提言

アウティングを未然に防ぐために一人一人出来ることは非常にシンプルである。それは「本人に確認をする」というだけのことである。どの範囲にまで、どのような事実を伝え、ても良いのかを確認することである。そして、それを怠って、アウティングをすれば、その責任が問われるということである。

もし、アウティングを起こしてしまった場合には、まず本人への説明と謝罪、伝えてしまった人への事情の説明とそれ以上に広まらないような対処、再発防止策などを策定することであり、これも極めて単純なことである。問題は、こんな単純なことが出来なかった背景は、すでに指摘してきたように、自らの過ちを認められない、謝罪を認めない元職員の姿勢とその姿勢を許容してしまっている教団の組織風土がある。組織風土を変える即効的な手段はなく、長い目で組織文化を変えていくことが求められる。従って、中長期的に様々な制度改革を行いながら、継続的に組織文化を変えるための努力が必要である。

再発防止策について

日本基督教団は、この調査結果を真摯に受け入れ、被害者の方の損なわれた権利の回復と、このような事態を引き起こした主体として、信頼回復のためになすべきことを早急に検討しなければならない。

調査結果にある「今回申告された事態は、「差別」と「自己情報コントロール権の侵害」が、周囲の意図するか否かにかかわらず惹起される

社会的要因と人間の心理構造にも起因するものである。したがって、謝罪は何が問題であったのか、それを繰り返さない対処を具体的に講じていくことを明らかにし、関係当事者との信頼を回復するものでなければならぬ。この取り組みは、決して容易なものではないが、関係者全体で、この取り組みの価値の重要性が共有されることを心より期待する。」に基づき、再発防止のための施策検討に取り組むこととする。

(1)研修の実施 組織として繰り返し学び、気づきの機会となる研修を用意することが必要である。

(2)当事者の処分 組織として加害者である元職員の非を認め、当事者への謝罪をすることが筋であるが、そのためには元職員の処分が前提となる。元職員の今後の処遇が被害者に及ぼす影響も考えられること、組織としての厳しい姿勢が伝わらない限り、組織全体として問題点を共有することができず、再発防止ができないと思われるからである。(抜粋ここまで)

以下、調査報告書をもとに総幹事としての見解を述べます。

このような事態に至る背景には、組織および個人の日常の慢心があると言わざるを得ません。被差別部落解放、差別問題等の活動に関わる己の判断、部落解放センターという組織が間違っているのではないという、ある種の驕りと怠慢が、今回の事件を引き起こしました。

調査報告書で指摘されたひとつひとつは、加害者及び日本基督教団という組織への厳しい提言です。これらに向き合い、被害者の方への深いお詫びと共に、私どもが内側に抱える諸課題に取り組み、関係当事者との関係修復に努めて参ります。

誰かが憶測や情報不足、理解不足により、誤った認識に陥ります。そ

れにより隣人を深く傷つけてしまいます。罪人たる所以です。しかし主の十字架の贖いにより、その罪を赦されるからこそ、その過ちに気づき、繰り返しぬよう自らを省み悔い改めることで、また自由にされると信じます。個々人は欠けの多い器であることを自覚しつつ、信仰者としてそれぞれの賜物を捧げて部落差別解放、および、あらゆる差別的課題に取り組んでいかねばなりません。調査報告書に指摘された再発防止策として、当面、次の2点について実施して参ります。

①教団事務局・出版局・年金局・部落解放センターで毎年行われるハラスメント研修会を、より広く各教区、教会・伝道所へ開かれたものにし、人権意識を喚起してゆく。

②新任教師オリエンテーションで、必ずハラスメント研修を行う。

この再発防止策だけでは不十分との意見があることは承知しており、総幹事として関係各部署と早急に検討を進め、より広く共有できる再発防止策を講じる努力を続けて参ります。

本件は、元職員の個人的な人権侵害に留まらず、日本基督教団の組織をも問われております。

互いの存在を敬い大切にするという基本の現実が、非常に意識の低いものであったという事実を真摯に受け止め、元職員だけでなく、部落解放センターに関わる者、また日本基督教団に属するもの全てが、個人の尊厳や人権に対する意識を今以上に自らの内側に問い、また共に学びつつ、その歩みを深めてゆかねばならないと考えております。

主の御前に深く懺悔し、日本基督教団の全ての教会・伝道所、関係者の皆さまにご理解賜りたく、総幹事として、ここに見解を記します。

以上

謝罪文

2022年5月、部落解放センター（日本基督教団事務局大阪分室）において、当時職員として勤務していた者による「アウトティング（暴露行為）」という重大な人権侵害が起きました。

「本人の同意なく、本人の秘匿している情報を他者に開示する行為」であるアウトティングにより、被害者の方に多大な恐怖、ご不安と、なにより人として自由に生きる当たり前の権利を奪い、計り知れないほどの深い傷を負わせてしまいましたことを雇用責任者として深くお詫びし、心より謝罪申し上げます。誠に申し訳ございませんでした。また、私どもの対応の遅さから、被害者の方に長い時間、苦痛の時間を被らせてしまいましたことを、重ねてお詫び申し上げます。

この件について、第三者による調査委員会に調査を委ね、そのことは被害者の方にとっては遅きに失する対応であったと存じますが、調査結果を受け、私どもは組織としての対応の過ちを深く認識いたしました。調査結果における、とりわけ日本基督教団の対応の過ちについて教団新報に公表し、日本基督教団全体でこれを共有し、再発防止のための方策を検討して参ります。

加害者の人権研修プログラムを含め、部落解放センターをはじめとする日本基督教団の各組織において改めて人権問題全般についての研修を重ね、これらを広く共有すべく努めて参ります。

日本基督教団に属する者全てが、命の尊さ、他者への敬意、プライバシーを重んじ、人格を傷つけることのないよう、主の前にあって謙遜に学びを続け、恐れず自らを省み、人権侵害のない世を目指す者として祈り、歩んで参ります。

2025年3月12日

日本基督教団
総幹事 網中彰子

2025年5月30日

元職員の謝罪文について

日本基督教団
総幹事 網中彰子

部落解放センターにおけるアウトティングについて、行為者である元職員は、自らの行為について被害者の方へ謝罪文を提出しましたが、その内容は自らの過ちについての認識の不十分さから、真の謝罪と言うに至らず、未だ被害者の方に受け入れていただける状況にありません。被害者の方への謝罪の言葉はあるものの、自らの行為についての十分な認識、理解に欠けており、真の悔い改めに至っておりません。

自らを省み、過ちを認めるに至る道は厳しいものではありませんが、それを遙かに超えて被害者の方の苦しみがあることを知らねばなりません。「調査報告書」に記されたことを認識し、問われていることを理解し、それらを受け入れることで、心からの謝罪が必ず与えられることを、元職員が気づくことができるよう、雇用責任者である総幹事として繰り返し促しつつ、真の謝罪に至よう求めてゆく所存です。

また、なお時間を有することを被害者の方に改めて深くお詫び申し上げますと共に、教団内でこの事態を共有するために「教団新報」への至らない報告を掲載することを被害者の方が苦渋の中でご理解くださったご温情に感謝申し上げます。

処分

日本基督教団事務局・出版局就業規則および諸規則、第39条第1項(2)(3)に基づき日本基督教団部落解放センター（事務局分室）の元職員を、2022年11月に遡って訓告処分とする。

※第39条第1項(2) 事務局、出版局の名誉を毀損し、または職員の体面を傷つけたとき
(3) 故意または重大な過失により、事務局、出版局に損害を与えたとき

さらに、総幹事からの指示があるまで、教団部落解放センター等の活動に関わることを禁止する。

2025年5月30日

日本基督教団
総幹事 網中彰子

処分

日本基督教団事務局管理職執務規定第19条(4)に従って、網中彰子総幹事を第20条(2)の減給処分とする。減給は3ヵ月、基本給の10%とする。

※第19条(4) 部下に対して必要な指示、注意、指導を怠ったと認められたとき。

2025年5月30日

日本基督教団
総会議長 雲然俊美

西中国

三役・常置委員選挙をオンラインで実施

5月20・21日、第74回 島流川教会を会場に開催 西中国教区定期総会が広

正議員114名中80名で あった。

准允式に関する件が承認され、小畑太作議長、司式により、井上真歩教師(広島女学院中学高等学校聖書科勤務教師)、高柳研二教師(萩教会主任担任教師)、吉丸初美教師(広島西部教会主任担任教師)の准允式が執り行われた。

この度の総会では、三役と常置委員の選挙が行われた。前期は三役と常置委員ならびに常設委員会・常設専門部・特別委員会等の任期が1年であったが、今期からは従来通り2年任期となった。

【議長】鎌野真(福山延広)、【副議長】海老原佳奈子(岩国・岩国東)、【書記】小松博士(呉平安)

【三役選挙結果】鎌野真(福山延広)、【副議長】海老原佳奈子(岩国・岩国東)、【書記】小松博士(呉平安)

【常置委員選挙結果】加藤俊英(下関西・下関彦島・小月)、月下星恋(広島東部)

【信徒】土井桂子(廿日市)、野口菊義(大島)、松尾登(山口信愛)

【海老原佳奈子報】また、教団の各委員会等の組織についても協議し、意見を交換した。(久世そらち報)



左から、野口委員、海老原副議長、鎌野議長、土井、加藤、小畑各委員、小松書記、松尾、月下各委員

機構改定検討委員会

教団総会適正規模について検討

3月19日、第2回教団機構改定検討委員会が教団会議室で開催された。

はじめに藤掛順一委員が提出した文書「教団機構改定を第43総会第30号議決に基づいて進めるために確認すべきこと」について説明を受け、意見を交換した後、協議に入った。

今回は主として教団総会について検討した。ま

ず直近の第43回教団総会にかかった経費等を確認し、総会にかかわる課題

意義や必要性も議論された。さらに各教区の議員数の配分方法をめぐり、定数の規程(教規第2条「各教区に教師、信徒各3名」)についても議論され、これらについて次回委員会できさらに検討することとした。

第3回委員会は、5月13日、教団会議室で行われた。

今回も藤掛委員が文書「教団機構改定のこれまでの歩みと、第43総会期『機構改定検討委員会』

事務局報



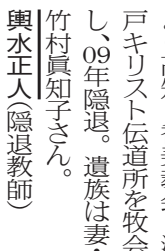
21年10月14日逝去、92歳。京都府生まれ。84年受允、87年受按、84年より高崎南、いずみ、石川教会を牧会し、18年隠退。遺族は妻・笹淵いづみさん。

24年4月23日逝去、86歳。東京生まれ。63年デューク神学校卒業、64年より長野県、須坂教

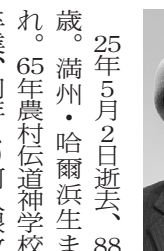
竹村俊明(隠退教師)



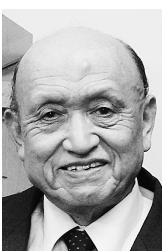
25年4月9日逝去、75歳。石川県生まれ。87年東京神学大学卒業、同年より高知、香美教会、瀬戸キリスト伝道所を牧会し、09年隠退。遺族は妻・竹村真知子さん。



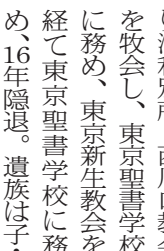
25年5月2日逝去、88歳。満州・哈爾濱生まれ。65年農村伝道神学校卒業、同年より阿久根牧会を牧会し、17年に隠退。遺族は妻・奥水路子さん。



25年4月27日逝去、90歳。沖縄県生まれ。65年関西学院大学大学院修了、同年より平良川、宮古島伝道所、糸満牧会を牧会し、沖縄教区巡回教師を経て、18年に隠退。遺族は妻・仲尾次江江さん。



25年5月3日逝去、93歳。中国・吉林省長春生まれ。66年農村伝道神学校卒業、同年より松山番町、坂出一粒、新居浜西部教会を牧会し、05年に隠退。遺族は子・森国子さん。



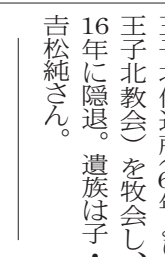
25年5月16日逝去、88歳。東京都生まれ。63年デューク神学校卒業、64年より長野県、須坂教

24年4月23日逝去、86歳。東京生まれ。63年デューク神学校卒業、64年より長野県、須坂教

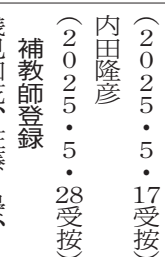
25年5月28日逝去、92歳。満州・大連生まれ。56年日本福音教団立東京聖書学院卒業、60年より王子北伝道所(69年より王子北教会)を牧会し、16年に隠退。遺族は子・吉松純さん。



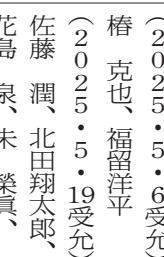
25年5月3日逝去、93歳。中国・吉林省長春生まれ。66年農村伝道神学校卒業、同年より松山番町、坂出一粒、新居浜西部教会を牧会し、05年に隠退。遺族は子・森国子さん。



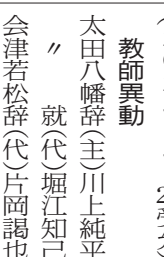
25年5月16日逝去、88歳。東京都生まれ。63年デューク神学校卒業、64年より長野県、須坂教



25年5月2日逝去、88歳。満州・哈爾濱生まれ。65年農村伝道神学校卒業、同年より阿久根牧会を牧会し、17年に隠退。遺族は妻・奥水路子さん。

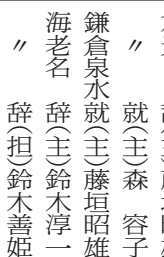


25年4月9日逝去、75歳。石川県生まれ。87年東京神学大学卒業、同年より高知、香美教会、瀬戸キリスト伝道所を牧会し、09年隠退。遺族は妻・竹村真知子さん。

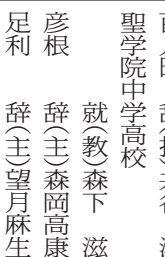


24年4月23日逝去、86歳。東京生まれ。63年デューク神学校卒業、64年より長野県、須坂教

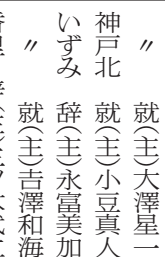
25年5月28日逝去、92歳。満州・大連生まれ。56年日本福音教団立東京聖書学院卒業、60年より王子北伝道所(69年より王子北教会)を牧会し、16年に隠退。遺族は子・吉松純さん。



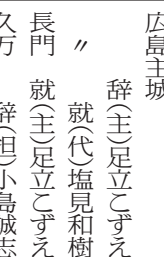
25年5月3日逝去、93歳。中国・吉林省長春生まれ。66年農村伝道神学校卒業、同年より松山番町、坂出一粒、新居浜西部教会を牧会し、05年に隠退。遺族は子・森国子さん。



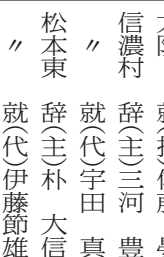
25年5月16日逝去、88歳。東京都生まれ。63年デューク神学校卒業、64年より長野県、須坂教



25年5月2日逝去、88歳。満州・哈爾濱生まれ。65年農村伝道神学校卒業、同年より阿久根牧会を牧会し、17年に隠退。遺族は妻・奥水路子さん。

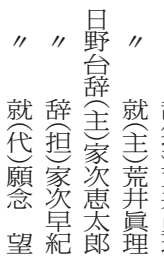


25年4月9日逝去、75歳。石川県生まれ。87年東京神学大学卒業、同年より高知、香美教会、瀬戸キリスト伝道所を牧会し、09年隠退。遺族は妻・竹村真知子さん。

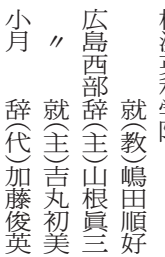


24年4月23日逝去、86歳。東京生まれ。63年デューク神学校卒業、64年より長野県、須坂教

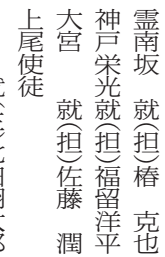
25年5月28日逝去、92歳。満州・大連生まれ。56年日本福音教団立東京聖書学院卒業、60年より王子北伝道所(69年より王子北教会)を牧会し、16年に隠退。遺族は子・吉松純さん。



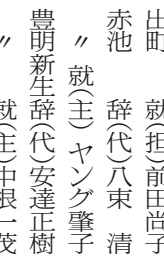
25年5月3日逝去、93歳。中国・吉林省長春生まれ。66年農村伝道神学校卒業、同年より松山番町、坂出一粒、新居浜西部教会を牧会し、05年に隠退。遺族は子・森国子さん。



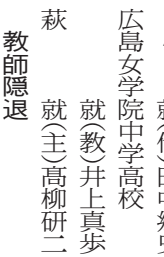
25年5月16日逝去、88歳。東京都生まれ。63年デューク神学校卒業、64年より長野県、須坂教



25年5月2日逝去、88歳。満州・哈爾濱生まれ。65年農村伝道神学校卒業、同年より阿久根牧会を牧会し、17年に隠退。遺族は妻・奥水路子さん。



25年4月9日逝去、75歳。石川県生まれ。87年東京神学大学卒業、同年より高知、香美教会、瀬戸キリスト伝道所を牧会し、09年隠退。遺族は妻・竹村真知子さん。



24年4月23日逝去、86歳。東京生まれ。63年デューク神学校卒業、64年より長野県、須坂教



君津伝道所全景と筆者



君津伝道所全景と筆者

区役所勤務を続けながら、自宅での礼拝に切り替えることで図らずも開拓伝道の道が開かれました。そこで東京都品川区にあった実家

を売却し、母の隠居所に用意した土地の上に介護を兼ねた建物を建て、木更津教会の了承を得て君津伝道所として2003年9月23日に開所式が行われました。これ以降、内房牧師会に参加して講演会を開催しました。しかし、その間も母の認知症はアルツハイマー型で、徐々に進行して行き、2007年にはデイサービスのお泊りの朝にベッドから転倒し、今度は左大腿骨を骨折して手術し2か月入院することになります。

結婚して奥沢教会の担任教師の任期が終わり、一時横浜に賃貸マンションを借りていた頃のこと、次の任地が決まるまでの間に一人暮らしをしていた私の母に認知症を疑う行動が目立つようになりました。この報せは母が所属する洗足教会牧師からのもので、千葉県君津に住所を定めたのも、木更津にあった別宅を処分し2000年にJR君津駅の駅前に一軒家を購入して母を呼び寄せて同居せざるを得

した。幸いなことに木更津教会のご了解を得て一家で出席させていただくことになり、これも母との教会生活を維持したいためでしたが、半年が過ぎた頃のことです。聖日礼拝を終えて巡回バスを下車する際にステッブから転落し、右大腿骨を骨折・手術で3か月ほど入院することになりました。後に、母はリハビリを経て帰宅できたものの、要介護となり、当時の教会は2階が礼拝室のため階段が介助し



伝道報告

七十二人は喜んで帰って来て、こう言った。…イエスは言われた。「あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」
ルカによる福音書第10章17節～20節

伝道推進室より応援した教会・伝道所

母の介護を通して

君津伝道所牧師 高野 茂

なかつたことが大きかったと思えます。1997年12月にアクアラインが開通し、木更津駅から羽田空港への高速バスの運行が開始されてお

当時の君津市は、日本製鉄の君津製鉄所が進出して、下請け企業を多数従えた企業城下町の様相を呈しており、人口も9万人を超えていま



第45回「同宗連」総会

4月15日、曹洞宗事務庁にて、「同和問題」とりくむ宗教教団連帯会議（同宗連）第45回総会が開催された。加盟64教団のうち出席は38教団、74名。来賓として部落解放同盟中央本部、

「同和問題」とりくむ宗教教団連帯会議（同宗連）第45回総会が開催された。加盟64教団のうち出席は38教団、74名。来賓として部落解放同盟中央本部、

前のような活動をおこなうことができたが、委員長等の選出に困難があったことも報告された。同宗連は、各宗教教団から教職員が参加する以下の定例研修を毎年行っている。夏、冬の「基礎講座」、秋の「教団行政責任者研修会」、狭山現地調査学習会、冬の「同宗連研修会」。その他に

この話がある会合で紹介されたとき、「説教も同じではないか」という声があがった。普段の牧会があり、釈義の仕方があり、日本語を整えることがあり、聴衆とのコミュニ

この話がある会合で紹介されたとき、「説教も同じではないか」という声があがった。普段の牧会があり、釈義の仕方があり、日本語を整えることがあり、聴衆とのコミュニ

《同宗連第45回総会》

「狭山事件」新たな一歩を呼びかけ

ただ紀さんの思いに従って正確に言うならば、教えているのは挨拶の仕方であり、ラケットの持ち方であり、球拾いの仕方であり、個々の技術や心構えなのだ。自分が教えられるのは、それらの一つ一つではない。それらを総合して、「テニス」というものと向き合うことを教えているという。



テニスを通して人と



静岡草深教会員

昔、「幸せって何だっけ、何だっけ」という歌がCMで流れ大ヒットした。バブル崩壊前のまだ調子のいい時代に、いい調子に乗りながら多くの人が改めて問い問われた。私が洗礼を受けたのもこの年。幸せって何だろうか。いつの時代でも問われているが、答えはそれぞれ。何の意味があるのか知らないが、毎年「〇〇別幸福度ランキング」などというものが発表される。多くの人は幸せをある目標値でとらえて、今自分はどのあたりに到達しているかとい

昔、「幸せって何だっけ、何だっけ」という歌がCMで流れ大ヒットした。バブル崩壊前のまだ調子のいい時代に、いい調子に乗りながら多くの人が改めて問い問われた。私が洗礼を受けたのもこの年。幸せって何だろうか。いつの時代でも問われているが、答えはそれぞれ。何の意味があるのか知らないが、毎年「〇〇別幸福度ランキング」などというものが発表される。多くの人は幸せをある目標値でとらえて、今自分はどのあたりに到達しているかとい

メッセージするからか。しかし、「幸せは目標ではないスタートだ」という考え方もある。何かを獲得したり、達成するところに幸せがあるのか？

幸いなるかな

ある条件をクリアしたら幸せなのか？そうした考え方に対し、「では、赤ちゃんは幸せではないのか？」という問いが向けられる。赤ちゃんは経験値ゼロ、達成度ゼロ、獲得ポイントもゼロのスタート地点。しかし、幸福度ゼロから最も遠いではないかと。

イエスは、「〇〇な人々は、幸いである」と言われた。まず、「幸いだ」と。詩編もこの言葉から始まって、「ハレルヤ」で終わる。その間に感謝や喜びもあれば、恨み辛みもある。しかし、そもそも出発点が幸いだ。イエスにあって幸い。神の国にあって幸い。そこから経験し歩める幸い。

(教団総会副議長 藤盛勇紀)